

コース名		科目名			対象学年		
臨床医学		眼・視覚系			4		
開講学期		科目責任者		副責任者			
1 学期		三木 淳司		長谷部 聡			
目的							
<p>専門的な医学知識と医療技術習得のために眼科学分野の専門領域を理解すること。 人間が得る情報の80%は視覚から得ており、視覚に障害を及ぼすことはQOLに大きく関与するので、眼科学は重要な分野である。 臨床実習に臨む前に、眼の正常構造や機能、疾病の知識を学習する必要がある。</p>							
授業到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 眼球と付属器の主要疾患の主症状について説明ができる。 2. 眼と脳疾患との関係について具体例を挙げて説明ができる。 3. 外眼筋の主な疾患について3疾患以上説明ができる。 4. 重篤な視覚障害疾患について病理から治療まで説明ができる。 5. 眼の診察について基本的知識を身につけ実習に備えることができる。 6. 眼科救急疾患についての治療法の原則を説明できる。 							
授業計画							
回数	月日	曜日	時限	区分	担当者	所属	授業内容
1	4/3	水	5	講義	家木	眼科1	1章) 眼の構造と機能 2章) 眼疾患の問診、症状と検査の進め方
2	4/3	水	6	講義	家木	眼科1	17章) 視野 23章) 色覚
3	4/8	月	2	講義	瀬戸口	眼科1	3章) 角膜
4	4/8	月	3	講義	瀬戸口	眼科1	3章) 強膜 5章) 水晶体
5	4/19	金	1	講義	鎌尾	眼科1	8章) 網膜1 総論
6	4/19	金	2	講義	鎌尾	眼科1	8章) 網膜2 網膜血管疾患
7	4/22	月	3	講義	瀬戸口	眼科1	10章) 眼瞼, 結膜, 涙器
8	4/22	月	4	講義	瀬戸口	眼科1	15章) 眼外傷と眼科救急・プライマリケア
9	5/2	木	1	講義	鎌尾	眼科1	8章) 網膜3 黄斑疾患
10	5/2	木	2	講義	鎌尾	眼科1	7章) 硝子体 8章) 網膜4 その他
11	5/15	水	3	講義	三木	眼科1	19章) 斜視と弱視1 総論
12	5/15	水	4	講義	三木	眼科1	19章) 斜視と弱視2 各論
13	5/24	金	5	講義	家木	眼科1	20章) 視力
14	5/24	金	6	講義	家木	眼科1	21章) 屈折と調節の基本 22章) 屈折・調節異常の治療
15	5/29	水	3	講義	三木	眼科1	18章) 眼球運動と両眼視機能
16	5/29	水	4	講義	三木	眼科1	16章) 神経眼科
17	6/7	金	1	講義	鎌尾	眼科1	4章) ぶどう膜
18	6/7	金	2	講義	鎌尾	眼科1	12章) 腫瘍 13章) 視覚器の発生と先天異常
19	6/12	水	1	講義	三木	眼科1	瞳孔、その他
20	6/12	水	2	講義	三木	眼科1	9章) 視神経
21	6/21	金	5	講義	瀬戸口	眼科1	11章) 眼窩 14章) 全身疾患と眼1 解剖

22	6/21	金	6	講義	瀬戸口	眼科1	14章) 全身疾患と眼2 検査
23	6/25	火	5	講義	家木	眼科1	6章) 緑内障1 総論
24	6/25	火	6	講義	家木	眼科1	6章) 緑内障2 各論
評価方法							
[期末試験]95% (授業全般にわたっての理解を試験により確認する。)							
[出席状況 (受講態度)]5% (出席状況を評価に反映する。)							
[評価方法]多肢選択試験、出席・受講態度評価							
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックについて							
(特になし)							
教科書							
ISBN-, 「標準眼科学」第15版, 監修: 中澤 満、村上 晶、(編者: 園田康平、中澤 徹), 医学書院, 2024/2							
参考書							
(特になし)							
準備学習 (予習・復習等)							
予習: 講義資料により講義内容を確認し、指定教科書の該当部分を通読しておくこと。							
復習: 講義当日の資料で再度確認をすること。							
予習・復習ともに1時間程度の学習を要する。							
講義についての注意事項							
講義中に質問があれば積極的に発言をして下さい。							
昨年度からの変更点・改善項目							
昨年の期末試験の結果を踏まえて、正解率の低かった問題に対応する講義の内容に重点を置く。							
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連について							
この科目は主として、コンピテンスの「Ⅲ. 医学と関連領域の知識」の達成、中でも特に「1. 人体各器官の正常な構造と機能を説明することができる」と「3. 病態から臨床症状、診断方法や治療方法を説明することができる」に向けて設定されている。							
また、眼・視覚系という科目は、他の科目と重複しない検査や診察技術に対する理解や習得などを要する特殊な科目である。							
4年生の講義でそれを理解し、5年生の実習でそれを実践し、6年生の試験でそれを確認することで卒業・学位授与へと繋がると考えている。							
本科目の後に学ぶ症候論や臨床病態論の他、臨床実習開始のために必要な医学知識を習得し臨床医科学を理解する。							
ナンバリング							
DL0V402							